

表紙の人

山本 あつし 氏

(事業プロデューサー)



【プロフィール】

ならそら代表
一般社団法人 CHISOU 理事
大阪芸術大学デザイン学科講師

1971 年大阪府生まれ
システムエンジニア、建築設計・
施工の仕事を経て、2011 年からは
”survive with everyone” を
ビジョンに、空間・プロダクト・
広告・教育・まちづくり・公共事
業などあらゆる領域のプロデュース
を手がける。

また「超珍しい!」を見つけて
みんなでまちを明るくするまち歩
き『超珍』、ツッコミで地元愛を育
てるまち歩き『世界ツッコミまち
歩き』など、「歩いて学ぶ」プログ
ラムの研究・開発も行う。

「場を生むデザイン賞」
審査員紹介映像は、QR
コードからご覧下さい。



「表紙の人」は、事業プロデューサーで大阪芸術大学デザイン学科講師の山本 あつし さんです。奈良県景観デザイン賞では前回・前々回と審査員をつとめていただきました。本年の「場を生むデザイン賞」においても審査員をお願いしています。

■「場を生むデザイン賞」の紹介映像で「住」という文字についてお話されていました。

「住」は「人が主（あるじ）」と書きます。つまり住むということは、建物がメインではなく人が主体であるということ。世界中で SDGs が注目を集めるいま、物質性ではなく精神性をより重要視する時代になり、建築に求められるものも変化しています。20 世紀の建築家ル・コルビュジェは「住宅は住むための機械である」と言いましたが、言い換えるところでは「人をいきいきとさせることこそ建築の役割」ということ。その理想に社会の要求がより近づいてきたように思います。

■「場を生むデザイン賞」と従来の景観デザイン賞との違いはどこにあると考えますか？

前々回、2016 年の景観デザイン賞では、知事賞に「Good job! Center KASHIBA, Good job! Center Studio」が選ばれました。障害のある人のアートをデザインによって社会と結びつけ、地域を巻き込みながら展開していく素晴らしいプロジェクトでした。また 2018 年の前回は、地域型アートイベントをきっかけに、低予算にもかかわらずコミュニティの結節点を具現化した「小南家のリノベーション」が知事賞を受賞し、建築単体の芸術性のみならず、建築と人の関わりが評価され、この賞自体が成長したと感じました。その流れを汲んだ今回の「場を生むデザイン賞」の開催は、まさに時代に見合った進化であると感じています。

■奈良における「場を生むデザイン」の現状について伺います。

2011 年の東日本大震災を機に、都心部から地方への移住が活発になりました。そこから各地で新たな交流が生まれ、奈良でもこの 10 年でいままではなかった暮らし方や働き方をする人が増えたと感じます。それに伴って「人が主」の場づくりも、あちこちで見られるようになってきました。若い作家の作品を紹介する元洋品店のギャラリー、町屋を改装した足湯休憩所のあるゲストハウス、週末だけ自宅を開放してオープンする私設図書館、他にも商店街にシェアオフィスが誕生するなど、異業種・異分野の多様な人々が出会い、知恵や知識を共有する機会が増えてきました。こうした「共有空間のデザイン」を、建築のハードだけではなくソフトも含めて評価し、広く紹介することは大変意義のあることです。私たちはいま、先行き不透明な「VUCA（ブーカ）の時代」を生きています。今回の賞でも審査員は建築分野だけでなく、私を含めて他分野の方々が集まりましたが、互いの視座や視点を共有しながら広い視野を持ち、それぞれが自らの未来をつくりだしていくことが求められています。奈良県建築士会の皆様には、今後もこのような事業を通して建築の新たな時代を切り拓いていく存在であっていただきたいと思います。

■ありがとうございました。

【記：教育・事業委員会 吉田 泰造】

新年のご挨拶



令和4年
新年のごあいさつ

(一社) 奈良県建築士会会長
米村 博昭

令和4年の新年を迎えご挨拶申し上げます。会員の皆様におかれましても、この2年間、新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応でご苦労されていらっしゃると思います。感染も落ち着いてきているようですが、また新しい変異株が国内に入っております。これから先も、アフターコロナではなく、ウィズコロナの生活が続くことになり、建築や住宅の設計にもウィズコロナの配慮をすることになることでしょう。

昨年延期された「建築士会全国大会広島大会」は、会場を東京に移し、対面とオンラインの併用で開催されました。今後の大会においても対面とオンラインの併用による会議が常態となるかもしれません。本会におきましても、総会を始め各種会議は人数を制限し、研修会等事業においてはオンラインの設備を整えて実施しています。

コロナ禍もそうですが、国際化が進んでいることを実感した1年でもありました。輸入木材の高騰や各種建築設備の入荷が読めない状況が続いています。部品等の生産を海外に依存している状況を改めて、痛感しているところです。

地球温暖化の進展により災害が激甚化しています。被災してからへの対応について事前の備えをすることにより、発災後の迅速な対応ができることから、建築士会では、「事前防災活動指針」を作成しました。これをもとに、自治体と連携を図って行きたいと考えています。

また、地球温暖化を抑制するためのCO₂排出量の削減や、地域経済の発展、健康やストレスに寄与すると考えられている木材の利用を推進しています。特に木造公共建築物の推進を図るために発注者への啓発リーフレットや設計者のための手引きの作成を、木造公共建築物等推進タスクフォースを設置し県と協力しながら進めております。

空き家の問題については、ここ数年継続して取り組んでいるところですが、市町村と連携を図り、空き家相談や利活用の推進を進めており、市町村からの要請

により「空家等対策協議会」への委員を推薦いたしています。

本県には、文化財に指定された建築物だけでなく、歴史的建築物が多数残されています。これらの活用を図り地域活性化を推進することが重要ですが、現行建築基準法を遵守して改修することが困難な事例も多くあり、本会では、「歴史的建造物委員会」を設置し、歴史的建造物の利活用の相談を受けております。

最後に、建築に関する研修など本会の活動にご参加をいただくとともに、建築士という資格を地域貢献に活かしていただければと思います。今年も変わらず本会にご支援いただきますようお願い申し上げ、また新型コロナウイルスが落ち着くことを願ひまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和4年
新年ごあいさつ

奈良県知事
荒井 正吾

皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の波が世界中、日本中を襲い、奈良県民の皆さまの日常生活にも大きな影響を与えました。新たな年は、新型コロナウイルス感染症の影響が薄まり、皆さまの健全な日常生活が取り戻せることを願うばかりです。

新型コロナウイルス感染症から県民の命と健康を守る

新型コロナウイルスに感染された場合であっても、早期に発見し、必要な治療につなげることで、重症化を防ぐことは十分可能です。奈良県ではこれまで、重症になられた方は全て重症対応病床で治療することができましたし、感染者の急激ないっときの増加期を除いて、全ての感染者の方に入院や宿泊療養をしていたことができました。また、自宅でやむなく療養される場合でも、十分な経過観察、連絡、相談の体制をとることができました。

昨年の6月以降は、ワクチン接種が進み、11月下

旬には、ワクチン接種を希望される全ての方に、2回目のワクチン接種を行うことができ、新規感染者の増加を防ぐことができました。

感染者への医療を心を込めて提供してくださった県内の医療従事者の方々、ワクチン接種を推進していただいた市町村、地区医師会をはじめとした関係者の方々に、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら社会経済活動を取り戻す

奈良県の感染者数は、大阪の感染者のほぼ10分の1で同期化することが分かってきています。奈良県の県外就業率は約3割で、そのうち8割以上が大阪へ通勤されています。通勤を止めるわけにはいきませんので、通勤には最大限のうつらない配慮が必要です。また、うつらない配慮とともに、家族や友人にうつさない配慮が必要です。

適切な配慮をすれば、感染予防に効果があることも分かってきました。マスクの着用、部屋の換気、手指の消毒を心掛ければ、感染リスクを相当下げられます。「ワクチン接種で安心飲食キャンペーン」、「いまなら。キャンペーン」、「Go to Eat の再開」も12月1日から実施しました。感染リスクを十分下げて、日常の社会経済活動を取り戻していけたらと思います。

奈良の未来発展に向けて

コロナ禍の中でも、奈良県の発展に寄与する大きなプロジェクトが動き出しています。来年度予算に盛り込みたいと考えている楽しみな案件が幾つもあります。南海トラフ地震等大規模災害に対応するため、五條市に建設予定の2000m級滑走路を持つ大規模広域防災拠点の整備。大和平野中央部に県立大学工学系第2学部の設置と国民スポーツ大会用のスポーツ施設の整備を軸としたスーパーシティ構想の実施。中央卸売市場の市場部門の全面建て替えと食を楽しみ憩える空間づくり。JR関西本線高架化と新駅設置事業、京奈和自動車道の建設推進、平城宮跡歴史公園の整備、近鉄大和西大寺駅の高架化と平城宮跡内の線路移設など、楽しみな事業が多くあります。

奈良県がもっとと良くなる初夢を見ながら、皆さまにも良い初夢がずっと届きますようにとお祈り申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。



令和4年
新年 あけまして
おめでとうございます

奈良市長
仲川 げん

令和4年の年頭にあたり（一社）奈良県建築士会の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より本市の建築行政にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会・経済あらゆる場面で甚大な影響を及ぼしましたが、新型コロナへの感染対策の徹底を続け、希望の光となるワクチンの接種の高まりとともに、感染状況に注視しながらも経済活動の再開に向けた動きが加速されようとしています。

2025年には、大阪・関西万博という大イベントが開催され、関西の一員である奈良の役割も大きくなっていくと考えております。本市といたしましても、再び国内外から多くの観光客が訪れる「まち」として、まち全体の感染対策を継続しながら、コロナ禍以前のにぎわいを創出できるよう魅力の発信を継続しているところです。

現在、政府では世界とつながる「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、分散型の国づくりを目指しており、本市には1300年前に都を構えた歴史や大阪へのアクセスの良さ、そして自然の豊かさなど、かつてイギリスの社会改良家の「エネベザー・ハワード」が提唱した田園都市の条件が整っていると考えております。奈良からその新しい田園都市のモデルを生み出し、関西をけん引するような意気込みで、まちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

本年も市政に更なるご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びとなりますが、貴士会の皆様にとりまして、新しい年が幸多き素晴らしい一年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。

新年のご挨拶



令和4年 新年のご挨拶

橿原市長
亀田 忠彦

令和4年の年頭にあたり、一般社団法人奈良県建築士会の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より本市の建築行政にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症に翻弄される1年でしたが、ワクチン接種が国内でも春頃から開始され、本市でも、希望する市民の皆さまに2回目までのワクチン接種を完了することができました。感染者数も減少しており、様々なご負担をおかけしながら感染拡大防止にご協力をいただいているに皆さま方に、改めて感謝申し上げます。今後も健康と命を守りつつ、新型コロナで影響を受けた地域経済を活性化させるため、全力を尽くしてまいります。

さて、近い将来、南海トラフ地震や奈良盆地東縁断層帯地震が高い確率で発生すると言われており、甚大な被害が予測されています。人命や財産の被害を最小限にするには、建物の耐震性を高めておくことが極めて重要です。耐震化を着実に進め、安心して暮らせるまちにするため、昨年3月、「橿原市耐震化促進計画」を改定いたしました。計画実現のため、市民の方々が生活されている住宅の耐震化を早急に進めていきたいところですが、これには市民の方々自らの取り組みが必要となります。このため、旧耐震基準で建築された住宅を所有する世帯を対象に、ダイレクトメールを活用した啓発活動を実施しています。また、従前より実施している住宅の耐震診断や改修への補助に加え、昨年度より、建替えに関する補助制度も新たに設けました。これらにより、耐震化計画を着実に推し進めてまいります。巨大地震の発生時には、余震による建築物の倒壊や落下物による二次被害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定が必要となります。その際には、建築士の皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

危機に備えると同時に、橿原市を「あのまちに住んでみたい」と思っていただけの、魅力的なまちにしていくことも大きな課題です。橿原市は、歴史・自然に

恵まれ、利便性も高いまちですが、大きなポテンシャルを秘めたまちでもあります。安全・安心なまちづくりの実現、そして、魅力ある橿原市のまちづくりのため、建築士の皆さまにもご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴会のますますのご発展と会員皆さまのご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和4年 新年のごあいさつ

生駒市長
こむらさき まさし
小紫 雅史

明けましておめでとうございます。旧年中は本市行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルス感染症は、全国で急激に感染拡大し、本市でも新規感染者やその家族、医療関係機関、障がい者・児施設他事業者の皆様に対し、様々な市独自の支援策や各種の取組みを打ち出してきました。

本年も新型コロナウイルス感染症に関する支援を積極的に推進してまいりたいと考えております。

そのような中ではございますが、本市は、昨年11月1日に、市制施行50周年を迎えました。当初は約3万7千人であった人口は、3倍以上となる約12万人まで増加し、近年は「子育てしやすく 質の高い教育・福祉を進めるまち」「市民との協働による楽しく住みやすいまちづくり」など、先進的な取り組みに挑戦し続ける自治体として、全国的に高い評価をいただいています。そして、「これからもずっと生駒市に住み続けたい」という市民の割合が88.9%であり、これは全国トップクラスの値でございます。これも社会資本整備に尽力され、この50年を支えてくれた先人、地域の皆様のお力であり、引き続き、学研高山地区第2工区の一部研究施設を含む工業団地やニュータウンの再生、駅周辺地域の活性化や再開発など、緑地を残しつつ必要な場や空間づくりの整備を進め、市民に愛されるまちづくりを推進してまいります。

また本市では「自分らしく輝けるステージ・生駒」をまちづくりのビジョンに定め、昨年6月には新たな都市計画マスタープランを策定しました。本市の多様な住環境を未来に継承し、「住まい」を拠点に新たな働き方や地域での交流など、多様なニーズに応える「暮らし」が享受でき、自分らしい生活が実現できる空間を創出していくため、都市づくりの目標を「住まい方・暮らし方を選択できるまち」とし、まちづくりに関わる市民や事業者、行政などの多様な主体が、役割分担しながら計画を推進していくこととしております。

住宅・住環境分野においては、住宅の耐震化・省エネ化の促進などによる質の高い住宅の確保や「いこま空き家流通促進プラットフォーム」の運営、リフォーム等の住宅相談などによる中古住宅の流通・利活用促進等に取り組むこととしており、これからも、貴会の協力を得ながら、時代のニーズに応じた都市づくりを推進してまいりたいと考えております。

これまでのまちづくりの良さを受け継ぎながらも、令和の時代にふさわしい新しい住宅都市の実現に全力で取り組みますので、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、貴会および会員の皆様のご発展をお祈り申し上げます。



令和4年 新年のご挨拶

奈良県県土マネジメント部
地域デザイン推進局建築安全課長

前田 巧

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

奈良県建築士会会員の皆様におかれましては、日頃から本県の建築行政にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、長引くコロナ禍のもと、それぞれのお立場においてご尽力されていることに対しまして心より感謝申し上げます。

さて、昨今の本格的な人口減少・少子高齢化社会の到来、自然災害の頻発・激甚化、新たな日常に対する住まい方・働き方のニーズや脱炭素社会に向けた対応の要請など、社会経済が大きく変革する中、建築・住

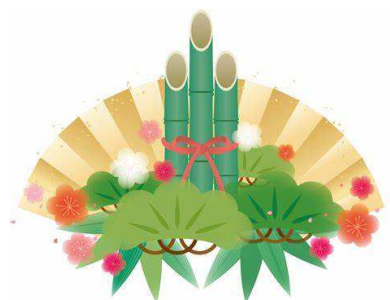
宅の分野においても、これらの時代の変化を踏まえた適切な対応が求められており、建築士の皆様には益々重要な役割と責任が期待されて参ります。

建築実務に関わる場所では、昨年までの設計図書への押印廃止、改正建築物省エネ法の完全施行、自然災害に備えた防災対策の強化として建築物の強風対策に係る告示改正などに加え、さらに、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、省エネ対策の充実・強化や木材利用の推進が求められており、国において関連法制度の見直し等の検討が開始されているところです。

本県においても、地震時における住宅・建築物の被害の軽減を図るため、昨年改定を行った「奈良県耐震改修促進計画」に基づく耐震化への取り組みを進めるとともに、災害時の被害や危険性が増す恐れのある違反建築物対策を引き続き進めて参ります。また、頻発・激甚化する自然災害に対応した「安全なまちづくり」を推進するため、災害ハザードエリアにおける開発抑制などを内容とする都市計画法の改正に伴う「都市計画法に基づく開発許可の基準に関する条例」の改正を行う予定です。これらの取り組みなどを通じて、県民の皆様の安全・安心の一層の確保に努めて参ります。

建築士会会員の皆様方におかれましては、今後も建築に関する最新の動きを注視し、これまで培われてこられた知識や技術を存分に活かし、地域社会の健全な発展に寄与くださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、奈良県建築士会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



謹 賀 新 年

(一社) 奈良県建築士会参与会々員

株式会社 浅沼組 (奈良営業所) 奈良市三条本町4-32 中室ビル ☎0742-26-5225 東口 勝彦	株式会社 奥村組 (奈良支店) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-5001 芳村 昌秀	株式会社 尾田組 奈良市高畑町738-2 ☎0742-26-6011 尾田 安信	株式会社 鍛冶田工務店 (奈良本社) 御所市150-3 ☎0745-65-2131 鍛冶田 八彦
株式会社 崎山組 橿原市南八木町2-3-35 ☎0744-22-2353 崎山 和之	清水建設 株式会社 (奈良営業所) 奈良市大宮町7-1-33 奈良センタービル ☎0742-34-1510 正井 洋	大日本土木 株式会社 (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-3071 藤垣 淳	株式会社 中和コンストラクション 桜井市桜井281-7 ☎0744-42-9313 大浦 晃平
株式会社 中尾組 桜井市桜井553-1 ☎0744-42-3567 中尾 隆成	中村建設 株式会社 奈良市三条大路1-1-48 ☎0742-33-1001 中村 光良	株式会社 平成建設 橿原市曽我町352-4 ☎0744-22-3800 吉崎 真仁	松塚建設 株式会社 宇陀市榛原福地610-1 ☎0745-82-1371 井上 清利
村本建設 株式会社 北葛城郡広陵町大字平尾11-1 ☎0745-55-1151 高田 幸伸	株式会社 森下組 吉野郡大淀町檜垣本1589 ☎0747-52-3535 森下 秀城	株式会社 山上組 奈良市鳥見町1-1-3 ☎0742-44-0063 山上 武宏	

(50音順)

謹 賀 新 年

役員・有志

泰プランニングオフィス 奈良市朱雀5-1-1-52-206 090-4906-7567 稲 原 泰 裕	井上建築工房アルス 大和郡山市北郡山町158-6 大和第3ビル204 0743-51-0286 井 上 慶 治	岡本設計 五條市本町1-7-30 0747-22-0282 岡 本 光 弘
奥村建設株式会社 天理市三島町165番地 0743-63-3358 奥 村 利 文	大和ハウス工業株式会社 大阪市北区梅田3丁目3番5号 06-6131-8550 折 目 貴 司	株式会社ワールド設計 磯城郡田原本町三笠152-10 0744-33-1616 阪 口 龍 平
株式会社崎山組 橿原市南八木町2-3-35 0744-22-2353 嵯 山 雅 由	小林建築事務所 天理市柳本町1519 0743-66-2511 庄 田 尚 代	株式会社中尾組 桜井市桜井553-1 0744-42-3567 中 尾 七 隆
株式会社中和設計 橿原市今井町2丁目1番14号 0744-25-5356 中 谷 淳 一	株式会社伸構造事務所 香芝市瓦口2166 0745-71-2200 中 本 明	株式会社 榎谷設計 奈良市西ノ京町101番地の1 0742-34-1461 中 元 綱 一
株式会社福本設計 奈良市大宮町4-281-1 新大宮センタービルディング 0742-34-2800 西 峯 隆 司	有限会社センザイ不動産 一級建築士事務所 天理市杉本町354-1 0743-63-7268 福 田 成 生	松塚建設株式会社 宇陀市榛原福地610-1 0745-82-1371 松 塚 幾 善
株式会社山本工務店 桜井市芝1362 0744-42-5441 山 本 規 子	吉田製材株式会社 桜井市吉備557 0744-42-2124 吉 田 敦 彦	公益社団法人 奈良まちづくりセンター 奈良市中新屋町2-3 0742-26-3478 米 村 博 昭

(50音順)

第44回 全国町並みゼミ奈良大会

はじめに

「第44回全国町並みゼミ奈良大会」 「まちの資産の活かし方」 —なにを、だれが、どのように—

令和3年11月12日～13日に（公社）奈良まちづくりセンター及び奈良町で活動しているまちづくり団体と、（一社）奈良県建築士会を含めた13団体が、NPO法人全国町並み保存連盟並びに奈良市との共催で開催しました。

全国町並みゼミは「郷土の街並み保存と、より良い生活環境づくり」をめざして、1974年（昭和49年）に「有松まちづくりの会」、「今井町を保存する会」、「妻籠を愛する会」の3つの住民団体が集まって、全国町並み保存連盟を結成、1978年（昭和53年）に愛知県で第1回有松・足助大会が開催されました。

奈良県では2003年（平成15年）第26回今井大会が開催されて以来の大会です。

本大会は、町並み保存運動の原点である、私たちが守ろうとしてきた地域社会の“くらし”を豊かにしてきた『町並みに代表される“まち”の資産』とは何なのか、誰が、どのように受け継ぎ、引き継ぐのか？』を改めて考える場です。

“まち”が持つ町家・町並み・生活文化・伝統産業などの資産を再発掘し、未来に生かすための再評価や発信を行い、次世代の創造的な文化、新たな産業、担い手、多様な主体の協働に繋げるのが趣旨です。

プレゼミ「奈良町トーク」

全国町並みゼミ奈良大会実行委員会を構成する奈良町のまちづくり13団体が集まり、10月3日（日）、奈良市ならまちセンターで奈良大会のプレゼミ「奈良トーク」を開催しました。

メンバー同士は知っているも成り立ちや行動が異なり、これまで本格的な意見交換の場はなかったため、事前に各団体への間取りと紹介ビデオを製作しました。

トークは、増井正哉・大阪くらしの今昔館長（奈良女子大・京都大学名誉教授）をコメンテーターに奈良町の各エリアから9人のパネラーが登壇。パネルディスカッションが行われ、今後もメンバー連



携していくことで意見が一致、「古くからの町並みや生活文化があって、まちへの愛着が生じ、活動のやりがいにも繋がる」と、増井館長の総括で終了しました。

ユースプログラム

奈良町ゼミには、奈良町に関心を持つ大学生も参加しています。奈良市と協働でユースプログラム（企画運営プログラム）を実施、6月から奈良町近隣の大学生9人が奈良町を調査し、まち歩きや地蔵盆体験、オンラインでの発表会、地元の人へのヒヤリング等の活動を行いました。

10月9日～10日には全国から参加した5人が加わり、奈良町で実際に生活し、活動している人たちと一緒に、地域を考えるケーススタディが行われました。活動の成果として、若い目で奈良町を見つめ考えた学生が製作したポスター展示を行いました。

奈良町見知り

きたまち、ならまち、高畑、京終という「奈良町」にある個性豊かなエリアで、歴史的建造物、社寺、生業の場など、まちの魅力となっている「ちょっといいところ」をピックアップし、この機会に奈良町をめぐってみませんか？と、特別公開や特別イベントを行いました。



分科会1

歴史的な街並みの保存に向けた制度の在り方 —その課題と展望—

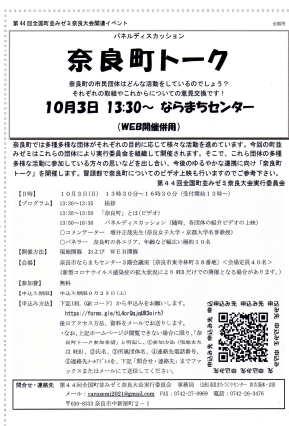
横浜市立大学教授の鈴木伸治氏をコーディネーターに、NPO法人倉敷町家トラストの中村泰典代表理事、NPO法人京町家再生研究会の小島富佐江理事長、奈良市都市計画課の佐々木伸夫課長補佐をパネリストに、各地からの報告があり、制度の活用事例を共有し、その在り方を模索すると共に、街並みに対する市民意識の醸成に向けた課題を明らかにするパネルディスカッションを行いました。

分科会2

町家継承の考え方

—暮らしの変化に合わせた取り組みの模索—

三重大学教授の浅野聡氏をコーディネーターに、パネリストのNPO法人全国町並み保存連盟の北島力副理事長から「歴史地区の持続するまちづくりー「町の担い手・コミュニティ、伝統建築技術の伝承」を、萩市商工観光部の大槻洋二次長から「萩の町並み・町家の50年を超えて」を、藤岡建築研究所の藤岡龍介主宰か



お知らせ

●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会 (更新及び新規登録)

開催日：令和4年1月13日(木)

会 場：奈良県文化会館 小ホール

●入会

谷口 幸市 様(生駒支部)

有田 和樹 様(高田支部)

よろしくお願いします。



●第10回「まちづくり奨励賞」を受賞(郡山支部)

第63回建築士会全国大会広島大会は、新型コロナウイルス感染拡大により、広島での現地開催に代えて、大会式典・記念対談・交流セッションとともに、「第11回まちづくり賞発表会&公開選考会」もオンライン配信で11月19日(金)に開催されました。

奈良県建築士会(郡山支部城下町を考える部会)からの応募事例の「奨励賞」受賞を報告します。本事例は、支部部会の旧城下町エリア(箱本十三町)での10年以上に渡る活動を報告したものです。立辻・徳本支部長の時代からの調査・その報告を兼ねたパネル展、先駆地域の方を招いてのフォーラム、そして、その内容を伝えるための冊子作製から町を巡るアプリの作成。そして、支部拠点「KOHAKU-AN」からの新しい活動までを報告しました。大賞(尾道空き家・再生プロジェクト)、優秀賞(いんしゅう鹿野のまちづくり、旧蚕糸試験場新庄支場を中心としたまちづくり)に続く4位となりましたが、大賞を受賞した尾道をはじめ選考会に残った事例には、実績を支えるだけの積み重ねから生まれた知恵や手法が詰まっており、今後の活動にも大変参考となるものでした。



【記：郡山支部長 折目 貴司】

編集後記

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスの猛威が衰えることなく、第5波の際は1日の感染者が2万人を超える日が続くなど、医療行為が十分に受けられず残念なことに自宅で亡くなられた方も多くおられました。新型コロナの発生は、働き方を変え、生活様式を変え、人の考え方でも変えたように感じます。長い歴史の中に刻まれる大きな出来事になってしまいました。ワクチン接種の影響か、新規感染者の数が大幅に減少しました。このまま終息に向かってくれればと願うしかありません。しかし、私たち建築業界では、ウッドショックに始まり、それに関連した合板類また設備機器不足が深刻な問題になっています。着工ができなかったり、引き渡しができなかったりと、新型コロナの影響は様々な分野にわたっています。

年始に暗い話ばかりではと思い、楽しい話題としてリアル二刀流の大谷翔平選手の活躍です。ピッチャーとバッター両方をこなすのは大変な事です。しかもメジャーで。だからこそ頑張ってもらいたいし、応援したくなるのだと思います。今年も無事に活躍してくれることを期待しています。【記：宮浦 重彦】

1月



1日(土) 元日・年末年始休業(〜3日)
4日(火) 仕事始め
13日(木) 応急危険度判定士養成講習会
21日(金) 令和4年新年交歓会
26日(水) 監理技術者講習
29日(土) 第39回近畿建築祭兵庫大会
31日(月) デザイン賞 応募締め切り

2月

16日(水) 監理技術者講習

士 会 奈 良 通巻 641 号

令和4年1月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333
<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 米村 博 昭

編集 (一社) 奈良県建築士会 情報・広報委員会



情報・広報委員会

委員長	福田 成生		
副委員長	松田 七彦	宮浦 重彦	
委員	中元 綱一	伊藤 吉郎	
	門脇 直也	折目 貴司	
	松尾 憲治	大倉 克之	
	小西 直樹	山崎 修裕	
	小松原寛俊	洞 尚樹	
	押部 誠		

奈良県のストレート合格者のおよそ9割は総合資格学院の当年度受講生!

奈良県
合格者占有率

No.1
建築士試験

令和元年度 1級建築士 学科・設計製図試験

奈良県 ストレート合格者占有率

88.9%

奈良県ストレート合格者9名中、当学院当年度受講生8名

令和元年度 1級建築士 設計製図試験

奈良県 合格者占有率

85.7%

奈良県合格者28名中、当学院当年度受講生24名

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。※都道府県合格者数・ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。※学科・製図ストレート合格者とは、令和元年度1級建築士学科試験に合格し、令和元年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、資料の提供提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和2年2月12日現在)

開講
迫る!!

令和3年度 1級・2級建築士
学科対策講座

受講生
募集中!!

お申込みは
お早めに!

1級・2級 建築士	構造/設備設計 1級建築士	建築設備士	宅地建物取引士	インテリア コーディネーター
1級・2級 建築施工管理技士	土木施工管理技士	電気施工管理技士	造園施工管理技士	賃貸不動産 経営管理士



総合資格学院
全国約100拠点 学院長 岸 隆司



www.shikaku.co.jp 総合資格 検索
Twitter ⇒ @shikaku_sogo
Facebook ⇒ 「総合資格 fb」で検索!

奈良校 TEL.0742-30-1511
奈良県奈良市西大寺町3-27 泉谷ビル 4F
近鉄大和と西大寺駅北口から徒歩5分